令和５年度(2023 年 12 月実施)　学校教育自己診断　結果分析（学校経営計画用）

○「学校へ行くのが楽しい。」、「自分の学級は楽しい。」等の設問について、肯定的評価が、生徒は 85%、保護者は 80%を超えている。また、いじめへの対応、カウンセリング、キャリア教育、人権教育、学校行事、部活動等に関する設問についても、同じく生徒は 85%、保護者は 80%を超えている。本校が、多くの生徒にとって、安全・安心な「居場所」となっており、かつ、本校の教育活動のついても評価されていると考えられる。

○授業、学習、ＩＣＴの活用、評価等の設問について、肯定的評価が、生徒は 85%、保護者は 80%を超えている。生徒については、90%を超えている項目も多い。本校の学習指導、評価について納得してもらえていると考える。また、この数年間の、新教育課程への移行、観点別評価の導入、ＩＣＴの活用推進等の教員の研修、取り組みの成果も現れていると考えられる。

○課題としては、生徒と保護者で、類似設問にもかかわらず、肯定的評価に差がある項目がある。生徒には肯定的に評価されている教育活動が、保護者には伝わっていない可能性があると考えられる。より一層の情報発信、保護者との連携の充実に努めなければならない。

○教職員の教育活動の評価、計画の見直し、授業の改善等の設問については、肯定的評価が向上している。一方で、教員間で教科を超えて話し合っている等の設問は、肯定的評価が微減している。この数年間に重点的に取り組んだ新教育課程への移行、観点別評価の導入、ＩＣＴの活用推進等が、検討の段階から実践と見直しの段階に進んだものと考える。

○教職員のカウンセリングマインド、いじめ対応、ハラスメント防止、家庭や外部機関との連携等の生徒指導に関する設問、ＩＣＴの活用や情報モラル向上に関する設問の肯定的評価が向上している。令和２年度から始まる新型コロナウイルス感染症に対する対応等を経て、生徒指導、ＩＣＴの活用が向上していると、教職員の回答からも伺える。